

知的障がい教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる授業デザインシート（試案）

1. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の定義

個別最適な学び

従来の「個に応じた指導」を学習者の視点で捉え直し、**指導の個別化**と**学習の個性化**の2つの柱で児童生徒の学びを考えること。

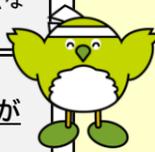
◆指導の個別化

児童生徒の生活上の課題や特性、学習進度を把握し、**教師が個々の状態**に応じて指導内容や教材、指導方法などを柔軟に設定・提供すること。

◆学習の個性化

児童生徒個々の興味・関心やキャリア形成（なりたい自分）に応じた学習活動や課題を設定し、**児童生徒自身が個々の最適な学び方**を選択・調整*1して取り組むこと。

*1「児童生徒自身が～選択・調整」…個々の学びの特性をもとに教師が複数の選択肢を準備し、個々の最適な学び方について児童生徒と話し合い、合意形成しながら柔軟に変更すること



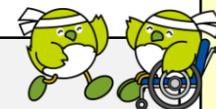
協働的な学び

テーマ*2を共有しながら活動し、他者とのかかわりの中で児童生徒それぞれの目標に向かい、達成感や成就感を**分かち合う**こと。
*2「テーマ」…題材(単元)で設定した教材や学びの動機になる事柄のこと

【想定される活動例】

- [活動①]様子や成果物を見せ合う
- [活動③]友だちの様子を知る
- [活動⑤]自分たちで判断する

- [活動②]道具や状況を共有する
- [活動④]意見を伝え合う
- [活動⑥]共に試したり、確認したりする など



「協働」の学びの中で「個別」の学びに取り組み、活かす

一体的な充実

2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための授業デザインチェック☑ [各チェック項目で、把握・検討・設定できているかチェックしましょう!]

指導目標の設定

題材(単元)を通して、どのような力を身に付けてほしいのか、題材(単元)終了時に何ができるようになっているのかを具体的に設定

< 指導の個別化 >

学習の到達度の把握

- 指導する内容について、既習の内容などを把握し、『特別支援学校学習指導要領』に示されている内容や段階で確認

【学びの到達度を把握する視点】
「状況を問わずできること」「もう少ししてできること」「支援があればできること」「できないこと」の視点でチェック

学び方の特性の把握

- 児童生徒の学びのきっかけとなる興味・関心、得意なことを把握
- 児童生徒の障がいの状態、経験の程度、学び取り方を把握（ことばの発達、記憶・情報処理・コミュニケーションの方法、生活経験など）
- 過去に有効であった支援の方法

< 学習の個性化 >

児童生徒の「わかる」「できる」の把握

- 児童生徒の好きなこと・できることを把握
- 児童生徒自身が得意としていることを把握（特技だけでなく、理解しやすい方法など）

児童生徒の「やってみたい」の把握

- 児童生徒の生活上の知りたいこと・挑戦したいことを把握（未経験を含む）
- 児童生徒のキャリア形成（やってみたいこと・なりたい自分）を把握
- 児童生徒の知りたいこと・挑戦したいことに関して、すでに知っている（経験している）ことを把握

指導内容の設定

- 該当の段階の「もう少ししてできること」「支援があればできる」と思われる内容を指導する内容として設定
- 児童生徒の「やってみたい」ことにつながる指導内容を検討 → ※該当の段階などを踏まえて優先順位を考える
- 指導する内容を何を材料として指導するか（教材）を設定

児童生徒の最適な学び（教材*3、教具*4、支援方法*5）の選択や調整を支える

*3「教材」…指導内容を指導するためのテーマや場面、活動のこと *4「教具」…思考の手がかりとなったり、学びを助けたりする道具のこと
*5「支援方法」…児童生徒の学びを支えるための教師の働きかけのこと

- 教材、教具、支援方法が児童生徒の学び方の特性に合っているかを検討
[検討の視点] ①児童生徒の学び方の特性から、得意な方法をいかしたもの
②過去に有効であった提示方法、言葉かけ、教具などをいかしたもの
③児童生徒が学び方を選択できるように複数準備

- 最適な学びの選択・調整について、児童生徒と合意形成する
[選択すること] 学ぶ環境（場所、状況、誰と）、学ぶ内容（児童生徒の「やってみたい」「なりたい自分」に応じて）、使う道具や教具（児童生徒の「できる」「扱いやすい」道具で）
[調整すること] 学ぶ量や学ぶ速さ、学ぶ順番や順序（学びの特性、キャリア形成に応じて）

児童生徒の「個」での学びの姿をイメージして授業者間で共有

「個」のできる状況*6を設定

*6「できる状況」とは、目的達成のために最後まで精いっぱい取り組むこと

「集団」での学び*7を生かす

*7「集団での学び」とは、「集団」で感じた思い、達成したこと、達成へ向けての仕方・考え方などのこと

共通のテーマのもと、展開される学習活動

< 協働的な学び >

共通テーマの設定

- 学習集団の興味、関心に沿ったもの
- 学習集団の生活上の課題に沿ったもの
- 学習集団全体で解決する課題に合ったもの

達成目標の設定

- テーマに沿って学習集団として、テーマを達成した姿を具体的にイメージ
- 達成目標の「個」への提示の仕方を検討

協働的に学ぶ活動の設定

- 引き出したい児童生徒が協働的に学ぶ活動を設定
活動例
[活動①]様子や成果物を見せ合う
[活動②]道具や状況を共有する
[活動③]他者の様子を知る
[活動④]意見を伝え合う
[活動⑤]自分たちで判断する
[活動⑥]共に試したり、確認したりする など

- 「個」と「個」がどのように関わるのかを想定
- どのような考えや姿が交わるのかを想定

協働する相手の検討

- 校内外の多様な人的資源の活用（先輩、後輩、友だち、教師、近隣の学校、近隣の方、専門家など）

達成感や成就感を分かち合うための支援方法の検討

- 「個」の学び方や考え方を踏まえたもの
- “分かち合う”思いやそのタイミングの想定

児童生徒の協働する学びの姿や“分かち合う”思いを授業者間で共有